

多摩市立

落合中学校だより

【教育目標】 慈愛 自主・自律 創造

<http://schit.net/tama/jochiai/>

ユネスコスクール オリンピック・パラリンピック教育推進校

第 1 1 号 (2 月号)

平成 2 9 年 2 月 1 日 (水) 発行
〒 2 0 6 - 0 0 3 3
東京都多摩市落合 4 - 1 4
Tel: 0 4 2 - 3 7 2 - 1 8 6 1
Fax: 0 4 2 - 3 3 7 - 7 6 5 4

落合中から緊急メッセージ! 「ひとりじゃないよ!!」

福島から避難している子どもをいじめないで

1 月 2 1 日 (土)、多摩市公民館ヴィータホールにて原発事故で福島から避難した子どもたちに対するいじめをなくそうと、福島県浪江町と本校吹奏楽部が東日本大震災の被災者支援イベント「浪江と多摩をつなぐふるさとつどい」が行われ、1 部ではみんなで考えた緊急メッセージを披露し、2 部では本校吹奏楽部の演奏や浪江中の生徒たちの空手演舞で交流をしました。

浪江中学校は東日本大震災以降、福島第一原発事故によって全町避難を余儀なくされ休校になりましたが、同県二本松市で授業を再開しました。震災前、町内の 3 校合わせて 5 5 0 人いた中学生は全国に避難し、現在、浪江中学校には 1 7 人が震災や原発事故を乗り越え、勉強や武道などに励んでいます。

当日緊急メッセージを発表した 4 人のメッセージを以下に紹介します。

「ひとりじゃないよ!!」

～福島第一原発事故で避難しているみんなへ～



今回、私たち吹奏楽部と浪江町の交流が決まり、この数か月間、先生や部員たちと中学生の私たちに何が出来るのだろうかと考えてきました。そこでたどり着いたことは、音楽を志すものとして「音楽を通じて応援する気持ちを伝えること」と「私たちが思ったり感じたりしたことを言葉にして発すること」の 2 点でした。そんな中、私たちは横浜や東京で、震災や福島第一原発事故から自主避難した子どもたちがいじめにあっているとのニュースを知りました。私たちの多くがその事件に驚き、悲しくなりました。そこで、私たちは私たちのメッセージを浪江町のみなさんやこうしたいじめに苦しむ人たちに届けようと考えました。

しかし、最初は何をどうしていいのかわからず悩みました。メッセージをみんなで書こうと取り組み始めてもどう言葉にしているのか、こんな言葉だと傷つく人がいるのかもしれないなどと考えると思うように言葉がまとまりませんでした。「うまく書こうとはせず、とにかく思ったことを書いてみよう」との先生の言葉を頼りに、3 3 名みんなが思い思いの言葉をぶつけてみました。

その中には、いじめの加害者に怒りをぶつける人もいれば、いじめを見ていたのに止めなかった大人や周囲の人たちに対する怒りや嘆きを表現する人もいました。また、被害者の心に寄り添い、「ひとりじゃない」と励ます人がいました。誰一人として、いじめを認めるものはなく、こうしたいじめをなくしたいと思う私たちの心の叫びでした。

私たちは部員 3 3 名の代表として、ここで宣言したいと思います。

いじめにあい苦しんでいる皆さんに私は伝えたいです。「みなさんはひとりじゃない」

少なくとも私は、私たちは皆さんの力になりたいと心から思っています。そして、こうしたいじめを絶対に許しません。たった今、この時間にも罪のない誰かが苦しんでいるかもしれません。言われなき理由で責められたり、無知からくる誤解であったり、不当な悪口であったり。こうしたニュースが流れるたびに私は悲しくなり、正直信じられません。でも、福島第一原発から避難した子どもたちで、こうしたことで苦しんでいる人がいることは紛れもない事実です。本来ならば、避難先で不安になっている、こんな時だからこそ心に寄り添い、励まし、協力していくべきではないでしょうか。私はそう思います。

私たちにできること。それは、メッセージを発信し続けることです。どんなに小さな力でも、それを寄せ集めれば大きな力になるはず。 (浜下すみれ)

以前、私は福島から来た子がいじめられていることをテレビで知り、とても嫌な気持ちになりました。それは、私に少し辛い思い出があるからかもしれませんが。私も小学生の頃、周囲でいじめがありました。最初はたわいもない言葉のいじめからはじまりいじめはエスカレートしていきました。すると、いじめを見ているのが耐えられないと思う人たちが、先生に「いじめがある」という事実を伝えました。当時は色々悩んでいましたが、もしあの時、誰かに「いじめ」の事実を伝えていなかったら、きっと私は今でも後悔していると思います。私が実際にこのような体験をして、大切だと思ったことは「声を発する」ということです。いじめられている子ども、いじめをとめられない子ども、「声を発する」ことで変わることがあります。

クラスの多くがいじめに関わっていたり、いじめを見ていても見て見ぬふりをしている中で、いじめをとめたり、先生に打ち明けるのは怖いかもかもしれません。でも、いじめられている人にとっては、「声を発する人」が一人でもいれば心強いはずです。 (岡崎琳音)

福島第一原発事故で避難している人をいじているみなさん。みなさん規模が違うとはいえ震度 5 クラスの地震を体験したはずで、その時はみなさん心にも深く傷を負ったことでしょう。ですが、福島第一原発事故で避難しているみなさんは、二次災害、三次災害に見舞われ、親族を亡くし、津波によって破壊された故郷を目の当たりにしました。このような人々をいじているみなさん、本来であれば、そのような人を見たら、どうするべきか、みなさんは学校の道徳の授業などでこうしたことを学んでいるはずだと思います。傷ついた心に寄り添い、励まし、一緒になって未来を向いていくべきだと思います。傷ついた人々をいじめで追い込む行為は、もはや犯罪です。今すぐやめてください。その人の気持ちになって考えてください。 (松本元汰)

私は、次の言葉を読んだときに驚きとともに、衝撃が走りました。

「3・11以来、私どもの基本的人権は、全く失われている」

「生存権すらも失われている」

この言葉は、浪江町の馬場町長のもので。故郷を奪われ、住む場所の自由もなく、幸せに暮らすことも奪われてしまった悲しみと怒りが込められていると思います。東京で暮らす私たちは、きっとこの苦しさを理解したくても、分かれようと努力しても、本当の辛さを理解できないかもしれません。しかし、福島第一原発事故で避難している福島県のみなさんや、浪江町出身のみなさんは同じ想いなのだと思います。

そんな中で、福島第一原発事故で避難している子どもたちのいじめのニュースが報道されました。私は浪江町の馬場町長の言葉そのものだと思います。泣く泣く故郷を離れ、避難先でも苦しまなければならぬ人がいる。どうしてなのでしょう。

浪江町から避難をしている人は 4 6 都道府県にとどまらず外国にまで及んでいるそうです。震災からまもなく 6 年目に入ろうとしていますが、震災復興はまだ終わっていません。まだ苦しんでいる人がいます。私たちが過去のことで勝手に終わらせてはいけません。では、私たちに何が出来るのでしょうか。

私たちが行動しても、今あるいじめや差別、苦しみ、悲しみを消すことはできないのかもしれませんが、それでも、私たちは何か行動して支えになりたい。同じ人間として、お互いに未来に向かって頑張っていきたいと思えます。

私は中 1 の時に熊本市立帯山中学校から転校してきました。その後、熊本で地震が起こりました。その時も多くの友人や吹奏楽部の仲間が熊本の友人たちのことを心配し、熊本や帯山中学校に対して募金活動や避難先の友人たちにメッセージを書いてくれました。私たちは、決して「ひとりじゃない」。あなたの味方はたくさんいます。決してあきらめないでください。 (満尾愛梨)



最後に・・・

メッセージを発表するにあたり、吹奏楽部の顧問の先生や生徒たちはどのような内容で作成し、どのような形式で発表するか悩んでいました。そんななか顧問より相談があり、その結果出した結論は漠然としたものでしたが、体裁や格好をつけず、今、どう発表するか、どんな内容にするか、悩んでいることを素直に表現すればよいのではないかと。そして原発事故被害で自分の意思ではなく強制的に故郷を追われ、仲のよい友達とも別れている仲間たちがいじめにあっている現実に対して、どう対処したらよいか、正面から向き合い、考え、悩んでいることが大切なことではないかと、ということでした。

今後は、可能であれば被災地へ行き、その目で見て、その鼻で嗅ぎ、その耳で聴き、その体で感じ、音楽を通して支援・交流をしていきたいと考えておりますので、御支援・御協力をお願いします。 (副校長)